

第4回佐倉市総合計画審議会 要録

日 時	平成27年9月28日（月）午後3時00分～5時00分
場 所	佐倉市役所3階会議室
出席者	鈴木 博委員（会長）、淡路委員、久留島委員、服部委員、佐々木委員、鈴木 唯委員、高橋委員、堀江委員 （欠席）杉江委員、明石委員
事務局	福山企画政策部長、向後企画政策課長、緑川、和田、櫻井、橘
その他	株式会社ぎょうせい 木戸
議 題	（1）第4次佐倉市総合計画後期基本計画素案について
配布資料	資料 第4次佐倉市総合計画後期基本計画素案
傍聴者	2人

（1）第4次佐倉市総合計画後期基本計画素案について

事務局説明

資料 第4次佐倉市総合計画後期基本計画素案について

人口減少や少子高齢化が本市における喫緊の課題であることから、本年度策定している「佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を重点施策と位置付け、その方向性や施策を、本計画の「Ⅱ 分野別計画」第2章に記載した。

また、第3回総合計画審議会でもいただいたご意見をふまえて修正を行ったものを、本日の素案とした。

【第3回審議会意見に対する市の対応について】

- ・前期基本計画と後期基本計画素案の新旧対照表があるとよいというご指摘については、本日配布した。
- ・基本構想に掲げる将来都市像が、市民の感覚からすると違和感があり変更ができないかのご指摘について、基本構想の変更は行わないが、総合戦略において方向性として掲げる「自分らしいライフスタイルを選択し、自己実現できるまち」を本計画重点施策に掲げ、市民目線の施策の方向性を明確にした。
- ・人口ビジョンの目標（2040年に総人口16万人を維持）の達成が難しく、実現するのであれば具体的で定量的な政策に踏みこむ必要があるというご指摘について、人口ビジョンにおける目標はアンケートなどから算出した市民の希望をかなえた結果のものであり、目標としては現状のままにしたい。具体的で定量的な政策推進については、総合戦略に具体的な施策を規定し、毎年の施策・事業検証を行い、PDCAサイクルを実施していく。

- ・人口ビジョンにおける、50～60代の転入超過2倍という目標が妥当かというご指摘については、本目標は削除することとした。
- ・住宅の改善を位置付けるべきというご指摘については、平成26年度策定の「住生活基本計画」や「中古住宅のリフォーム支援」などについて明記している。
- ・市民協働のために市民カレッジなどの活用について詳記すべきというご指摘については、すでに素案の記述にあることから記述の変更は行わず、具体的には市政マニフェストに基づき推進することとしたい。
- ・「メリハリのある住宅施策」とはどのような施策かというご指摘について、記述にある「それぞれの地域特性を把握した」住宅施策を想定している。
- ・「環境汚染の速やかな発生源の特定」という記述は、まだできていないのかという印象につながるのかというご指摘については、汚染が確認された場合の速やかな対応を記述したものであり、これまでの課題が未解決という意味ではないため、記述は素案の通りとしたい。
- ・「本市の農業を守ります」という記述は、農業施策の転換の中で本当にできるのかというご指摘については、市政マニフェストにも使用されている表現であり、また、重点施策において農業の施策は転換というよりも既存事業の強化を主な内容としているため、記述は素案の通りとしたい。
- ・「公共交通が利用しやすくなるよう、駅前広場を整備します」という記述がどこの駅を指しているのかというご指摘については、京成佐倉駅を想定している。庁内で再検討した結果、「公共交通が利用しやすくなるよう、駅前広場の改修を進めます」に表現を修正したい。
- ・「合併浄化槽の設置」という記述は引き続き記述すべきものかというご指摘については、後期基本計画においても合併浄化槽の推進を想定しているため、記述は素案の通りとしたい。
- ・「資産を活かした財源確保」という記述は実現可能かよく確認いただきたいというご指摘を踏まえ、「新しい財源確保の研究」という表現に修正したい。
- ・本計画を議会に上程以後も、実行に向け継続的に検討する場が必要であるというご指摘については、佐倉市行政評価懇話会、佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略、佐倉市総合計画審議会など既存の組織の活用を含め、今後のあり方について検討する。

事務局説明への質疑

(委員) 人口ビジョン目標の「50～60 歳代の転入超過 2 倍」を削除するという説明だが、削除して人口目標の達成は見込めるのか。

⇒ (事務局) 50～60 歳代については「転入数 2 倍」ではなく「転入超過数 2 倍」という目標です。転入超過数自体は大きな数ではないため、この部分の増加がなかったとしても、人口目標の達成は見込める。

(委員) 本市は「産業都市」でも「観光都市」でもない、「住宅都市」だと思う。「住環境」を「住宅環境」とまで記述を変更していただいたが、やはり住宅自体をよくしていくというニュアンスにはなっていない。「住宅・環境」という記述にしてもらえないか。

⇒ (事務局) 庁内で確認のうえ、修正したい。

(委員) 前回の会議の素案では「敬老会」の記述があったが、今回の素案では削除されている。具体的に書いているものについては、踏襲してもらいたい。あえて削除されたということは、施策として価値のないものと市が判断したようにも思える。健康寿命も延びており、65～71 歳の活動を無視して、今後を見ずえることはできないと思う。

⇒ (事務局) 庁内本部会において、施策間で記述に差があるという指摘があり、施策については具体的記述をしないという方向性を採ることになった。それにもとづき、記述を調整する中で「敬老会」などは削除されたものであり、ご指摘のような、施策としての価値判断や今後実施をしないというような意味合いを含んだものではありません。

しかし、「生きがいづくり」に関する施策の記述は確かに 2 行程度で、これでは方向性が見えづらいというご指摘ももつともですので、原課に確認し、もう少し見える形の記述を検討したいと思います。

ただ、本計画は「基本計画」という性質上、記述するのは方向性まで、という考えは持っています。

(委員) 各施策に、想定される「主な事業」を補記してはどうか。

⇒ (事務局) 現状の事業を掲載することはできると思います。本文中に掲載するか、資料として巻末掲載するかは、検討させてもらいたいと思います。

(委員) 本市の作戦が、やはり見えづらいとは思う。どういった経過で、後期基本計画へ変更する必要があったのか、短文でもよいので記述が必要と思う。

⇒（事務局）「計画策定にあたって」の記述に、後期基本計画を策定するに至った背景はもう少し必要と思うので、検討させていただきたい。

（委員）「人口の見通し」においては、平成31年までの人口推移が記述されているのみだが、総合戦略との関連図の中で、人口ビジョンの部分に平成72年（2060年）の目標が書かれている。脈絡がないように感じる。

⇒（事務局）国の方針により、人口ビジョンは平成72年（2060年）まで算出することとなっている。それに対して、本計画は平成31年までと、期間に差がある。誤解を招かないように平成31年の人口目標を併記するなど、記述を検討したい。

⇒（委員）国の手法であるなら、やむを得ないと思う。記述については、お任せする。

（委員）この計画の中で、何が重点なのかももう少し見えてもいいと思う。書かれていることはどこの地域にも当てはまるようなことで、市民がこの市を選び住み続けていくために何をしていくのか、ということが見えてこない。

たとえば、「佐倉学」とは何なのか、「佐倉市民カレッジ」は生涯学習の拠点となりうるものだが、何が課題でどうしていくべきなのか、そうしたことも詳しく書かれていない。市政マニフェストに書いてあると回答されても、一般的に読んでいるものではないと思う。

現場として努力していることも知っているが、やはり具体的なことが書かれていないことが気になった。佐倉学の現状は把握しているのか。

⇒（事務局）佐倉学については、副読本を使用して学習を行っていることなどは把握しているが、頻度などについては把握していない。

⇒（委員）全体として、もう少し夢が書かれていてもいいのではないかと気になったので、ご意見申し上げた。市史も編纂されてしばらく経っており、重点施策として扱ってもいいくらいだと思っているのだが、それも書かれていない。

（委員）重点施策として総合戦略をそのまま持ってくるだけでは、フィットしていないのかもしれない。総合戦略にこだわらず、見直してみられてはどうか。

⇒（事務局）重点施策の冒頭に、少し整理して書くこととしたい。

（委員）大学の講義や小学校の総合学習などにたずさわったことがあるが、特色あるものは排除されていく傾向があり、この計画にかかる議論においてもそうだったと思う。最後の会議ということなので言うが、意義ある会議にするためには皆さんにもっと意見をしてほしい。たとえば、基本構想の将来都市像について前回の会議で議

論になったが、もう少しそのあたりについて意見はないだろうか。

(委員) たとえば、基本構想で歴史を重く扱っているが、本市に歴史的に有名な人物がいるという印象もなく、それほどの歴史があるのか分からない。出身も本市ではないので、子どもたちのふるさととしてよくなってほしいが、個人的には永住するつもりはない。

(委員) もう少し学生を活用してもよいのではないかと思う。PRやボランティア活動など、学生を活用する余地はあると思う。

(委員) 佐倉は城主が何度も変わるので、特色になるほど定着した人物はいないというところはあるが、間違いなく歴史ある地域である。たとえば、戦後の本市と最近の本市の航空写真を比較してまち歩きをするというイベントを、大学生としたこともあるが、そうした目線の違うアプローチもまちを知る上で面白いと思う。

⇒ (委員) 子ども時代から、自国や、郷土の歴史を十分に学ぶ事が大切であるとの思いを持つ。近年、国際交流として、外国人との親交の機会が増えており、学生や社会人になってからも、国際企業や外国に住み、業務につく人々が増え続けているが、郷土について誇りをもって自国の歴史や文化を話題とする外国人が多い事に驚きを感じることが、度々ある。海外渡航の機会が増え、益々、英語等の外国語を学ぶ教育が行われ、多くの人々にとって外国人との関わりをもつ機会は、増え続けている。外国の人々と接すると自国の歴史や文化を極めて熱心に語るが、自国のことについて、学んでいるためだと思う、また、下校後の子供達は、親達と、色々と語り合う時間をもち、社会人への歩みに役立つとの(オランダのホームステイでの経験)話を聞いている。佐倉学から学ぶことは、佐倉市民にとっては、無駄ではないと考える。また、長い歴史を育んで今日を迎えた佐倉市には、その痕跡と偉業を残した人物は多く、強く感心を持って頂き、讃えたいものとの思いがある。

(委員) 後期基本計画では何が新しいのか、しっかりと答えられるようなものを作ってもらえるとありがたい。本市は、65~71歳の市民を活かす場もあるし、歴史や文化について深く書けるものがある。

(委員) この会議だけの議論では限界がある。市民と本気の議論ができる場が必要なのではないか。地域に貢献できる市民をいかに巻きこむか、という議論をできる場を作り機能させれば、多くの自治体の手本になるし、市政は新たなステージへ行くと思う。

(委員) 計画策定にあたっては、各委員の意見を反映しながら、「歴史・自然・文化のまち」を標榜する本市としての取組を位置づけていただきたい。また、委員の皆様におかれては、本計画は庁内の各部会における議論に立脚したものとご理解いただきたい

いと思う。

(委員) 素案の「基本施策の展開」以降、「前期基本計画の取組」「現状と課題」を囲ったレイアウトになっているが、後期基本計画ではどうするか、ということを明確にするために囲う箇所を一考いただきたい。

⇒ (事務局) 見やすく整理したいと思います。

(委員) 今後、計画の具体的な実施のあり方について、発言できる場があるといいと思う。

(事務局) 本日いただいたご意見については庁内で整理し、なるべく皆様の意向に沿うように検討を進めたいと思う。4回という限られた審議会であったが、ご意見いただき御礼申し上げます。